

# さんけん新聞

発行  
NPO法人  
三段峡-太田川  
流域研究会  
(代表・本宮炎)

〒731-3813  
広島県山県郡  
安芸太田町  
柴木 1734  
☎090・  
3421・3046

## 一口メモ

### ▼悪谷

二〇一九年以来五年ぶりに「三段峡スタンプラリー」が開かれるなど、ゴールデン

ウィークの三段峡は、新緑を楽しむ観光客でにぎわった。ただ、深入山―水梨口間の道路と水梨―猿飛・二段滝間が不通になり、三段滝

へは正面口からしか行けない。かつて悪谷と言われた三段峡は、崖崩れの積み重ねで形成された。その歴史と自然の美しさに想いを巡らす。

## お茶イベント 「生きた軟水茶室にはない風味」

水槽展示が一新された。二十個に増えた小型水槽にはインドジョウウやオヤニラミなどが魚種別に展示され、カエルやアカハライモリも観察しやすくなった。溪流をイメージした大型水槽ではアマゴやゴギ、ウナギが泳ぐ。全国のサンショウウオを撮影している男性

は「両生類のレイアウトがすごい。水族館より興奮する」と喜んでいった。カフェでは、本宮炎理事長が焙煎するコーヒーや宇治園製茶(尾道市)の協力による茶葉を使用したメニューが並ぶ。「三段峡の軟水の良さを楽しんでもらいたい」と一杯ずつ丁寧に入れ

ている。LOUPEならではのメニューは見浦牛せいり、琥珀糖菓子、プリン。海外で茶道上田宗箇流を教えるオーストラリア人のアダム・宗夢・ヴォイチンスキさんが四月二十三日、寺ヶ瀬でお茶を点て、お弟子さんやさんけんメンバーが楽しんだ。アダムさんは「新しいお茶の楽しみ方。清らかな生きた軟水。茶室では味わえない新鮮で優しい風味を感じた」と喜んでいった。

さんけんの相談役であり、徳島大学「人と地域共創センター」の吉田秀政准教授が四月十二日、LOUPEを訪れ、さんけんの課題や運営についてアドバイスをした。本宮炎理事長や小林久哉副理事長、井上嵩裕隊員らからヒアリングした吉田さんは、「三段峡で過去に起こったオーバーツーリ

ズムの弊害が今も続いている」と指摘した。三月に発行した井上隊員の活動報告を挨拶しながら配布した取り組みを、地域とともに歩む行動として、高く評価した。

## サントリー愛鳥基金 八十九万円補助

## 二区間で清掃

二〇二四年度サントリー世界愛鳥基金の贈呈式が四月二十二日、東京都千代田区の学士会館で開かれ、さんけんヤマセミ部顧問の上野吉雄さんと本宮宏美事務局長が出席した。「ヤマセミの環境保全活動を未来へつなぐ」事業による個体数の確認と人工巣穴の設置、保全の周知が補助対象である。昨年に続き二年目で、補助金は八十九万円。

春の観光シーズンを前に四月、三段峡の探勝路二区間で清掃活動をした。さんけん流川部の九人は十五日に餅ノ木ロー三ツ滝間で、一般募集の十三人は二十日に正面口―石樋間で、ササ刈りや土砂、流木、落ち葉を撤去した。深入山―水梨口間の道路と猿飛・二段滝への探勝路が不通になり、整備した両区間は三段峡観光の主要コースになる。

三月に発行した井上隊員の活動報告を挨拶しながら配布した取り組みを、地域とともに歩む行動として、高く評価した。

二〇二四年度サントリー世界愛鳥基金の贈呈式が四月二十二日、東京都千代田区の学士会館で開かれ、さんけんヤマセミ部顧問の上野吉雄さんと本宮宏美事務局長が出席した。「ヤマセミの環境保全活動を未来へつなぐ」事業による個体数の確認と人工巣穴の設置、保全の周知が補助対象である。昨年に続き二年目で、補助金は八十九万円。

春の観光シーズンを前に四月、三段峡の探勝路二区間で清掃活動をした。さんけん流川部の九人は十五日に餅ノ木ロー三ツ滝間で、一般募集の十三人は二十日に正面口―石樋間で、ササ刈りや土砂、流木、落ち葉を撤去した。深入山―水梨口間の道路と猿飛・二段滝への探勝路が不通になり、整備した両区間は三段峡観光の主要コースになる。

# LOUPE 充実 2年目オープン 魚種別展示 カフェ店開き

2年目を迎えた三段峡ビジターセンターLOUPEが4月6日、水槽設備を増やして展示を充実し、カフェ部門は三段峡らしいメニューをそろえて店開きした。寺ヶ瀬の水で茶を点てるイベントも開かれ、新しい一歩を踏み出した。



「ニホンヒキガエル、恐くないもん」



寺ヶ瀬で茶を点てるアダムさん

## 車イス観光の可能性調査

### 三段峡 広島都市学園大の学生

広島都市学園大学健康科学部リハビリテーション学科の石倉英樹助教とゼミの学生六人が四月十八日、三段峡でバリアフリーの現状や車イス観光の可能性に

ついて調査した。さんけん会員の元広修爾さんが、車イス観光を卒業生のテーマにしている石倉ゼミへ三段峡を紹介した。結果は後日発表される。

## 茶どころ太田川流域 ヤマチャ今に残る

おおよそ百年前、昭和初期に野田富示仁が撮影した茶摘みの様子である。五輪山など背景の山並みから、太田川をはさんだ加計・見入ヶ崎だと分かる。太田川流域の村々では古

くから茶の生産が盛んで、広島藩の地誌、芸藩通志の山県郡の巻には「茶 大田庄より出す、青茶、番茶あり、発売甚だし」とある。青茶は緑茶(煎茶)を指し、番茶は日干しにして褐色を帯びた素朴な茶である。広島県の番茶生産量は明治末期

に、全国五位を誇っていた。写真は整然とした煎茶用の茶園だが、農家の多くはヤマチャと呼ばれる半自生の木を番茶に使用していると思われる。現在はほとんど作られていないが、田んぼの石垣や植林地の林床にヤマチャが残っている。

三段峡の入り口、柴木集落の山中でも見つかると。以前は茶畑だったのだろう。柴木には三段峡ホテルの高下さんの茶畑があり、昔ながらの番茶を作っている。茶葉を筵(むしろ)に広げ、ホテル前で手揉みする奥さんが見られる。(松尾俊孝)

## セピア 写真帖

(18)

## 陶芸つながりの三段峡

小早川智里さん

## この人



広島市出身、陶芸家。佐賀大学芸術地域デザイン学部有田セラミック分野卒業。陶芸家である本宮炎理事長との出会いもあつ

て2022年、安芸太田町加計にアトリエを構えた。昨年8月には広島市内で初個展を開いた。花崗岩の白さが有田の風景を思い出させてくれる三段峡へは以前から訪れていた。その豊かな自然や歴史の奥深さを知るたびに三段峡の魅力に取りつかれている。LOUPEで販売するTシャツやキーホルダーなど、三段峡オリジナルのお土産品の開発に携わり、商品展示のデザインにも工夫を凝らしている。(宏)